

平成 21 年度事業概要について

平成 21 年度の森林生態系保全再生については、森林更新環境の回復や森林減少を防ぐことを目的に、下記の植生保全対策及び第 1 期計画期間で行った実証実験等の評価を行う。なお、新たな実証的取組と本格的取組への移行準備をすすめるとともに必要なモニタリングを行う。

1. 植生保全対策

(1) 区域保護対策（防鹿柵）（平成 19 年度に 5 カ年計画を策定）

①現地検討 平成 21 年 7 月に森林生態系部会・ニホンジカ保護管理部会合同の現地検討会を開催。具体的な設置箇所について、保護対象と優先順位の検討を行った。

（参考資料 1：議事概要、参照）

②実施場所 減少傾向にある植物種、多様な生物の生息環境に着目した箇所（西大台）。

平成 21 年度事業分、コウヤ谷で No. 37～39 の 3 ヶ所整備。11 月末に完成予定。

（平成 20 年度事業分、本年 7 月にカツラ谷で No. 35、ヤマト谷で No. 36 完成。）

平成 22～23 年度計画分、ワサビ谷から開拓奥までの 3 ヶ所及びカツラ谷 No10-2 において、現地検討会で設置箇所を選定した。（別添図面 No1-1 参照）

③実施方法 平成 21 年度は、現行の防鹿柵仕様にに基づき実施。

平成 22～23 年度分は、設置コストの低減等への対応のため、現行の防鹿柵仕様に加え、ヘリコプターによる資材運搬、人力で施工できる軽い資材の検討^{注1}（ステンレス含有本数・スーパー繊維入り素材ネット等）についても検討を行う。

注 1：小規模防鹿柵（東大台）、パッチディフェンス（西大台ギャップ地）、簡易防鹿柵（稚樹単木、個々の実生発芽基質保護）の使用部材として検討を行う。

(2) 単木保護対策（ラス巻き）（平成 19 年度に 5 カ年計画を策定）

①実施場所 ニホンジカの剥皮により枯死しやすいトウヒ、ウラジロモミが主要構成樹種となっている東大台において、上道周辺で 3,000 本の対象木を調査（新規及び巻き直し）。

また、森林生態系保全再生手法検討会及び事前WGにおいて、緊急に保護対策が必要である林縁部について当年予算で対策を進めるべきとの指摘により、正木峠周辺の林縁部において、500 本の追加調査を実施。（別添図面 No1-2 参照）両区域で、約 2,000 本の工事計画を策定。11 月～12 月工事実施。

②実施対象 母樹。剥皮を受けやすく剥皮により枯死しやすい樹種

（トウ・ウラジロモミ・コマカ・コバノ初コ・マンサク・サカマド等）

最近ではヒノキの剥皮が目立つようになってきており、単木保護の対象とするよう検討。

- ③優先順位 ・第2期計画での具体的取組に係るもの
- ①森林後退の境界線の保護（最優先に位置づけ）
 最優先箇所として、森林後退の境界線区域を図面上で選定し、次年度から現場調査及び対策を実施。
- ・平成19年度策定の5カ年計画に係るもの
- ②区域保全対策が実施されていない場所（未実施場所）
- ③ラス巻き実施から年月が経過している場所（要補修カ所）
 風致景観上等の理由により防鹿柵の設置がなじまず、シカの被害が多い場所を優先。
- ④実施方法 平成21年度実施分は以下のとおり。
- ・メタルラスによる新規及び巻き直し 約1,500本
 - ・プラスチック樹脂製ネットによる巻き直し 約350本
 - ・新規プラスチック樹脂製ネット新規施工 約200本^{注2}
- 注2：プラスチック樹脂製ネットの施工性、費用効果等を検証するための調査施工。
 なお、ラス巻きによる蘚苔類への影響に鑑み、本年度中に、メタルラスとプラスチック樹脂製ネットの評価を行い今後の資材選定についての方向性を決定。

2. 森林生態系の保全・再生に関するモニタリング

- (1) 植生に関する調査（植生タイプ別）
- ①再生ポテンシャルに関する基礎調査（結実量、環境条件、実生生育基質、実生、林床植生、コケ被度、ササの生育状況）
- ・現在調査を実施中
- ②植生に関する調査（植物相調査、西大台パッチディフェンスの効果確認、東大台小規模防鹿柵効果確認、生物多様性防鹿柵の効果確認、倒木・根株周囲のササ刈りによる効果確認、定点写真撮影）
- ・植物相調査、西大台パッチディフェンスの効果確認調査：現在調査を実施中
 - ・東大台小規模防鹿柵効果確認、倒木・根株周囲のササ刈りによる効果確認調査：平成21年10月末～11月中に調査実施予定
 - ・生物多様性防鹿柵（平成21年度設置予定）の効果をモニタリングすることを目的として、モニタリング初期調査を平成21年8月に実施
 - ・定点写真撮影：平成21年10月中に調査実施予定
- (2) 森林生態系保全再生計画実証実験、効果確認調査（防鹿柵、遮蔽ネット、表層土除去、地掻き、ササ刈り等）
- ・現在調査を実施中
- (3) ニホンジカによる植生への影響調査
- ・緊急対策地区：平成21年9月末までに調査終了済（下層植生、上層植生）

- ・重点監視地区：平成21年10月中に調査実施予定（下層植生）
 - (4) 西大台利用調整地区植生モニタリング（植生、種子等持込み状況、植生回復、希少植物、蘚苔類被度、外来植物）
 - ・植生、植生回復調査、希少植物調査：平成21年8月末までに調査終了済
 - ・種子等持込み状況、蘚苔類被度、外来植物調査：現在調査を実施中
 - (5) その他の関連調査（苗畑等の管理と移植苗木生育追跡調査、等）
 - ・移植苗木生育追跡調査：10月末～11月中に調査実施予定
 - (6) 野生動物に関する調査
 - ①昆虫類等調査（ガ類）（植生タイプ別調査）
 - 植生タイプ別対照区での柵設置直後の平成16(2004)年に行って以来2度目の調査を実施。6月から10月の各月の新月の夜に月一度の調査。設置式のライトトラップによる。現地調査は終了。現在、同定解析を実施中。動物WG（12月）で概要を披露の予定。
 - ②地域特性把握調査（両生類・爬虫類調査、昆虫類等（希少種・固有種））
 - (両生類・爬虫類)
 - ・今年度は特別に両生類・爬虫類の調査に特化した調査を行っていない。
 - ・他の調査時に、ナガレヒキガエル、オオダイガハラサンショウウオ等が確認されている。
 - (昆虫類等)
 - ・今後の森林の再生の指標になり得る種群を探索するため、いくつかの重点調査対象群を抽出し、試行的な調査を実施。今年度は以下の群に注目している。
 - ハバチ類・・・幼虫が植物に依存。草本を含む植物の多様性指標として期待される。
 - ヒメボタル・・・陸生貝類の生息やその量に規定。下層植生密度との関連。
 - 多様性保全防鹿柵での地表性甲虫・・・湿潤な沢浴いを選好する種に注目。
 - 直翅類（バッタ、キリギリス類）・・・下層植生密度等との関連
 - 食菌性甲虫類・・・原生的な森林に豊富な群。森林が乾燥すると減少が懸念される。
- ・植生タイプ別の定量的な調査では検出されない種<希少種・固有種>について、生態学的な観点からも注目して定性的調査を実施
- <注目すべき成果>
- ★キイチゴ類の葉を食べるハモグリガの一種がタイプVII柵内で増加
 - 柵により囲われた範囲で伸長したキイチゴ類の生長と関連すると考えられる。
 - ★シラネワラビハバチの発見
 - 多様性保全のための防鹿柵 No.32 の内側で発見。大台ヶ原は種の南限記録。
- ③ニホンジカの生息密度に関する調査（生息密度（糞粒法）、ルートセンサス調査、GPSテレメトリー調査）

3. 第1期計画における実証実験の評価と改善案

平成16年度から実施してきた実証実験に対する評価を行い、具体的取組に反映する改善案を検討。（資料2、参考資料2、3参照）

4. 第2期計画の目標と具体的取組内容

実証実験の評価と改善案、モニタリング結果等に基づく具体的取組のメニューを抽出し、メニュー毎に実現性、費用対効果、生態系に及ぼす影響等を勘案し絞り込みを行う。(資料3、参考資料3、参考資料4、参照)

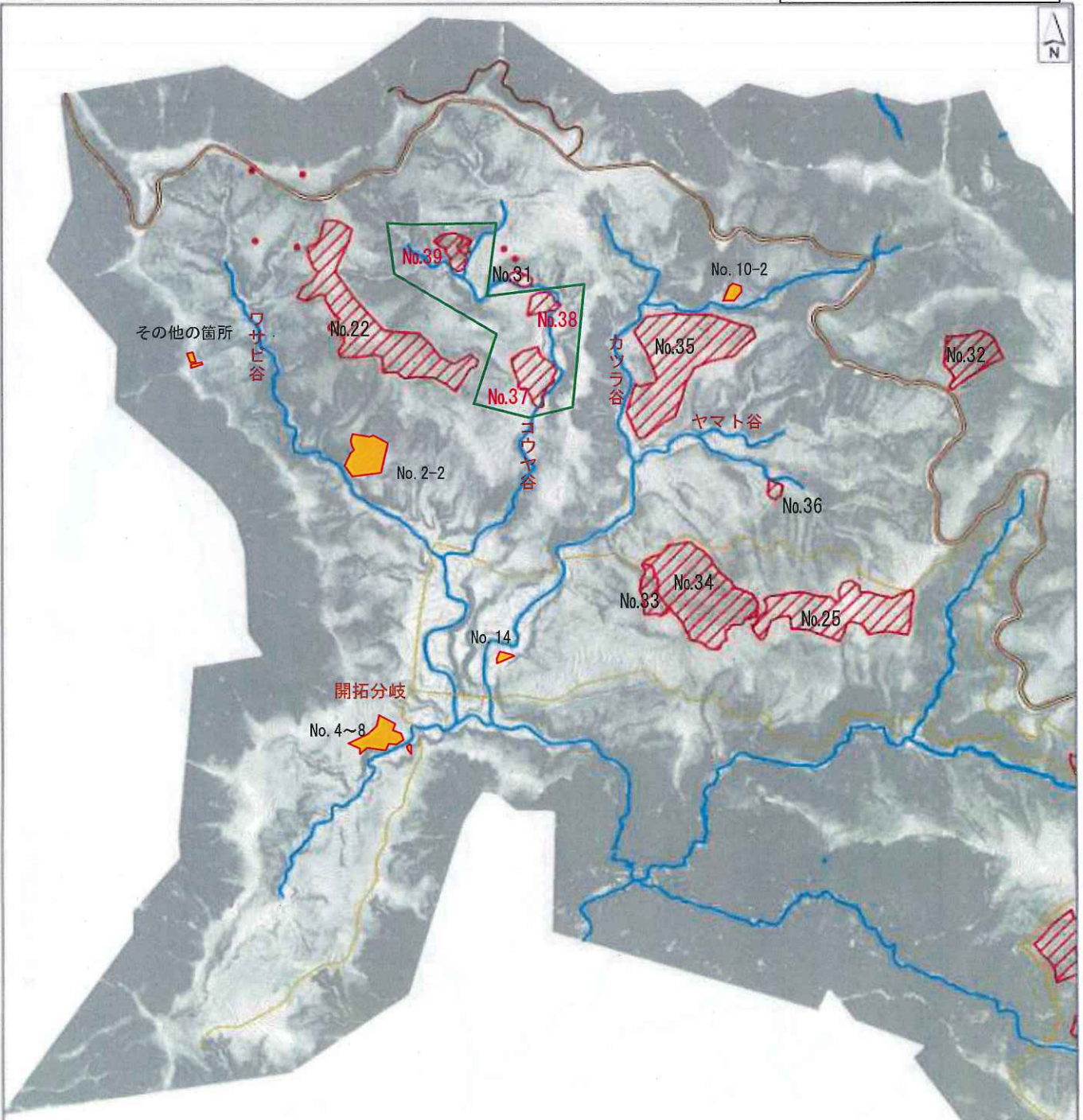
5. 周辺地域との連携

・林野庁大杉谷国有林においては、前年度からニホンジカによる森林被害対策指針検討WGが設置され、樹木保護のラス巻き（ボランティア等林業体験教育を視野に入れた作業）、小規模防鹿柵の設置、モニタリング調査等が実施されていることから、引き続き「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」において、情報の共有化等連携を促進。


・グリーンワーカー事業（国立公園等民間活用特定自然環境保全活動：環境省事業）を活用し、東大台に隣接する上北山村有林での単木保護対策（ラス巻き）を前年に続き実施。

6. 平成21年度事業スケジュール

参考資料5 参照



 H21 年度防鹿柵設置箇所

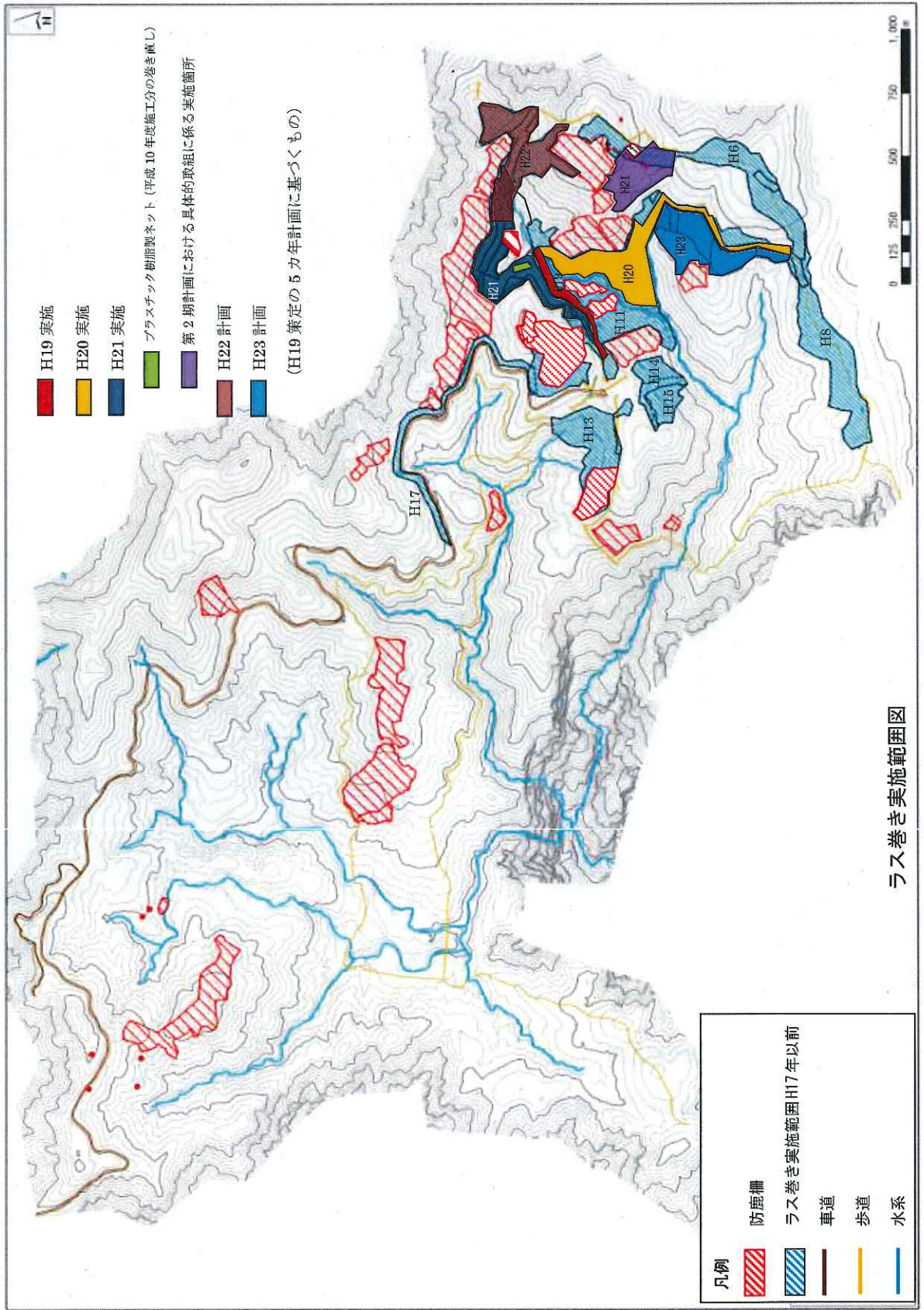
 H22～23 年度防鹿柵設置計画箇所

平成 19 年度策定 5 カ年計画による

- 凡 例
-  防鹿柵
 -  車道
 -  歩道
 -  水系

平成 21～23 年度防鹿柵設置箇所位置図





ラス巻き実施範囲図